

養蚕を通じた生業復活の試み

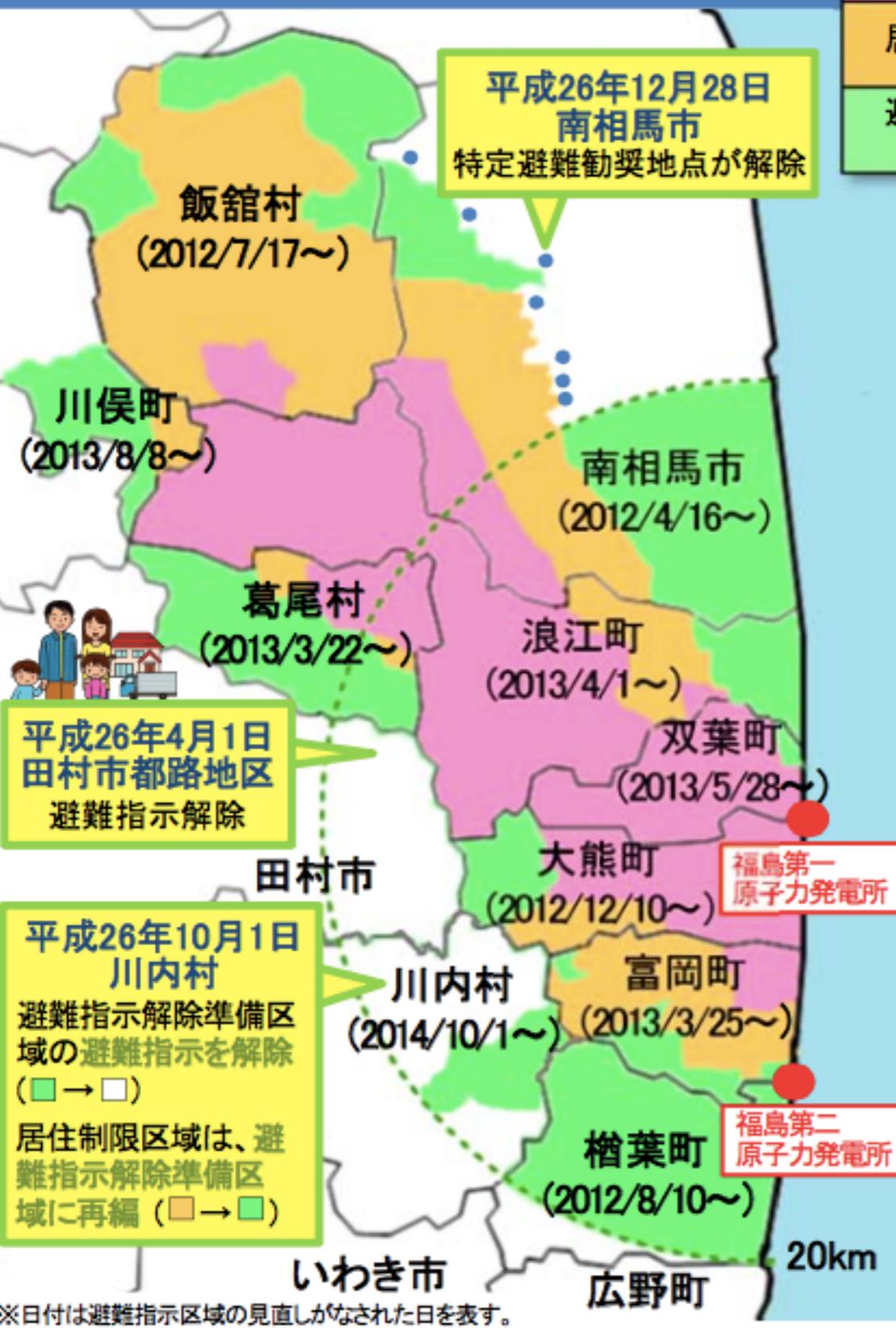
～南相馬市小高区の取り組みを事例に～

日本総合研究所 創発戦略センター

井上岳一

南相馬市で起きたこと

原子力災害に伴う避難指示区域等



| | |
|------------|--|
| 帰還困難区域 | 放射線量が非常に高いレベルにあることから、バリケードなど物理的な防護措置を実施し、避難を求めている区域。 |
| 居住制限区域 | 将来的に住民の方が帰還し、コミュニティを再建することを目指して、除染を計画的に実施するとともに、早期の復旧が不可欠な基盤施設の復旧を目指す区域。 |
| 避難指示解除準備区域 | 復旧・復興のための支援策を迅速に実施し、住民の方が帰還できるための環境整備を目指す区域。 |

◆田村市都路地区に続き、川内村の一部でも避難指示解除

田村市都路地区における避難指示解除(平成26年4月1日)に続き、川内村においても、平成26年10月1日に避難指示解除準備区域の避難指示解除、居住制限区域の避難指示解除準備区域への再編が行われました。解除後も引き続き、インフラや医療、買い物施設等の生活環境整備を進めていきます。

商業施設「Domo(ど～も)」、商業共同店舗「こなら商店街」オープン

平成26年4月6日、田村市の古道地区と岩井沢地区に、生鮮食料品や生活雑貨などを取り扱う商業施設「Domo(ど～も)」が開店。

平成26年7月31日、檜葉町に仮設商業共同店舗「こなら商店街」が開店。食堂やスーパー等の3店で営業開始。

◆南相馬市の特定避難勧奨地点が解除され、県内は全て解除に

南相馬市における特定避難勧奨地点(周辺地域に比べて放射線量が局所的に高いことから、政府が住民の避難を支援する特定の地点)が、平成26年12月28日に解除されたことにより、県内における特定避難勧奨地点は最初の指定から3年6カ月を経て、全て解除された。

◆復興庁・県・市町村による住民意向調査の結果(帰還意向)

| | 戻りたい | 条件が整えば戻りたい | 判断がつかない | 戻らない | 無回答 |
|-----|------|------------|---------|------|------|
| 浪江町 | 17.6 | 24.6 | 48.4 | 9.5 | |
| 双葉町 | 12.3 | 27.9 | 55.7 | 4.1 | |
| 大熊町 | 13.3 | 25.9 | 57.9 | 2.9 | |
| 富岡町 | 11.9 | 30.7 | 49.4 | 8.0 | |
| 葛尾村 | 25.6 | | 45.0 | 23.9 | 5.5 |
| 檜葉町 | 9.6 | 36.1 | 30.5 | 22.9 | 0.8 |
| 飯館村 | 21.3 | | 36.1 | 30.8 | 11.9 |
| 南相馬 | 29.3 | | 44.0 | 26.1 | 0.6 |
| 川俣町 | 35.4 | | 33.9 | 23.3 | 7.4 |
| 田村市 | 62.1 | | 28.0 | 7.8 | 2.1 |

避難者の推移

東日本大震災における震災関連死の死者数(都道府県・年齢別)
(平成26年9月30日現在)

(人)

| 都道府県 | 合計 | 前回との差 | 年齢別 | | |
|------|-------|-------|-------|----------------|-------|
| | | | 20歳以下 | 21歳以上 65歳以下 | 66歳以上 |
| 岩手県 | 446 | (5) | 1 | 55 | 390 |
| 宮城県 | 900 | (11) | 2 | 113 | 785 |
| 山形県 | 2 | (0) | 0 | 1 | 1 |
| 福島県 | 1,793 | (89) | 0 | 169 | 1,624 |
| 茨城県 | 41 | (0) | 2 | 6 | 33 |
| 埼玉県 | 1 | (0) | 0 | 1 | 0 |
| 千葉県 | 4 | (0) | 0 | 1 | 3 |
| 東京都 | 1 | (0) | 1 | 0 | 0 |
| 神奈川県 | 3 | (0) | 0 | 1 | 2 |
| 長野県 | 3 | (0) | 0 | 0 | 3 |
| 合計 | 3,194 | (105) | 6 | 347 | 2,841 |

※注1 平成26年9月30日までに把握できた数。

注2 平成23年3月12日に発生した長野県北部を震源とする地震による者を含む。

注3 本調査は、各都道府県を通じて市区町村に照会し、回答を得たもの。

注4 「震災関連死の死者」とは、「東日本大震災による負傷の悪化等により亡くなられた方で、災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき、当該災害弔慰金の支給対象となった方」と定義。(実際には支給されていない方も含む。)

出所：復興庁 (平成26年12月26日)

震災関連死

死者・行方不明者

| 福島県 | 1,793 | (3,715人) |
|-------|-------|----------|
| 福島市 | 9 | |
| 会津若松市 | 3 | |
| 郡山市 | 7 | |
| いわき市 | 128 | (460人) |
| 須賀川市 | 2 | |
| 相馬市 | 26 | (484人) |
| 田村市 | 11 | |
| 南相馬市 | 463 | (1,105人) |
| 伊達市 | 1 | |
| 川俣町 | 22 | |
| 大玉村 | 1 | |
| 鏡石町 | 2 | |
| 石川町 | 1 | |
| 三春町 | 1 | |
| 広野町 | 41 | |
| 檜葉町 | 103 | (123人) |
| 富岡町 | 253 | (315人) |
| 川内村 | 80 | |
| 大熊町 | 108 | (119人) |
| 双葉町 | 115 | (148人) |
| 浪江町 | 339 | (541人) |
| 葛尾村 | 26 | |
| 新地町 | 9 | |
| 飯舘村 | 42 | (43人) |

出所：復興庁（平成26年12月26日）

小高区で起きていたこと



出所：『「原発20キロ圏」小高区の三重苦』FACTA (2012年8月号)

小高区の苦悩

- ・ 家が無事でも住めない（避難指示解除準備区域）
 - ・ いつ帰れるのか？（→2016/4から帰還予定）
 - ・ 住める環境になるのか？
- ・ 小高区だけ賠償金をもらっている
- ・ 小高区の声が届ける相手がいない

水俣の教訓

- ・ 人と自然の分断
 - ・ 生（生命、生業、生活、人生）の喪失
 - ・ 漁獲禁止（1958年）→安全宣言（1997年）
- ・ 人と人の分断
 - ・ コミュニティの喪失
 - ・ 水俣病認定（1956年）→もやい直し（1994年～）

小高区が失ったもの

・ 人と自然の関係 → 生（生業、生活、人生）の喪失

・ 「晩御飯のおかずは川や海で獲れた。春秋には、山菜、茸を山に採りに行くのが楽しみだった」

・ 「コメや野菜をつくって、孫に食べてもらうのが喜びだった」

・ 人と人の関係 → 信（信頼、信念）の喪失

・ 賠償金の有無・多寡（→東電への不信）

・ 帰還の意志（→自治体への不信）

・ 放射能に対する態度（→国・専門家への不信）



他者への不信
自己の揺らぎ

一体、何が^レできるのか？

農学から学んだこと

農山村の生活文化研究



「聴く」という関わり方

聴くことならできる



2013年4月 NPO法人「浮船の里」設立

集まれる場をつくるう

話を聞く場をつくるう

聞くことの意味を
分かっている人がいた

二宮尊徳の「仕法」

芋こじ

社中折々集会して。身の修め方世間の附合。家業の得失。農業の仕方。商法の掛引。又心配筋の事。自分に決し難き事など。皆打明けて相談して。夫よりは此の方がよい。是よりはあの方が宜しい。又是より此の方が徳だ。夫より此の方が便利だと。相互に相談するのでござる。又教導職に説教を頼み。又学者に正講をも頼み。聴聞して益善心を。固くするが宜いのでござる。此集会を為す事を。二宮先生は。芋こじと常に申されたでござる。是は集会に度々出るは。芋こぢをする様なもので相互にすれ合て。汚れが落て。清浄になると云。譬でござる。

『二宮尊徳全集』第36卷

話し合うことから始める

アウトプットは決めない



最初の4ヶ月は
不平・不満・不安

涙と笑いの中で
段々変わってきた

“愚痴ばかり言っただけでも
始まらないよね”

“自分達で何かしなきゃね”

愚痴 → 自治

(吉本哲郎・地元学)

“絹織物してみたい”

蚕を飼うところから
全部手でやってみよう

原点に戻るう

お蚕様

お蚕様プロジェクト

織姫プロジェクト







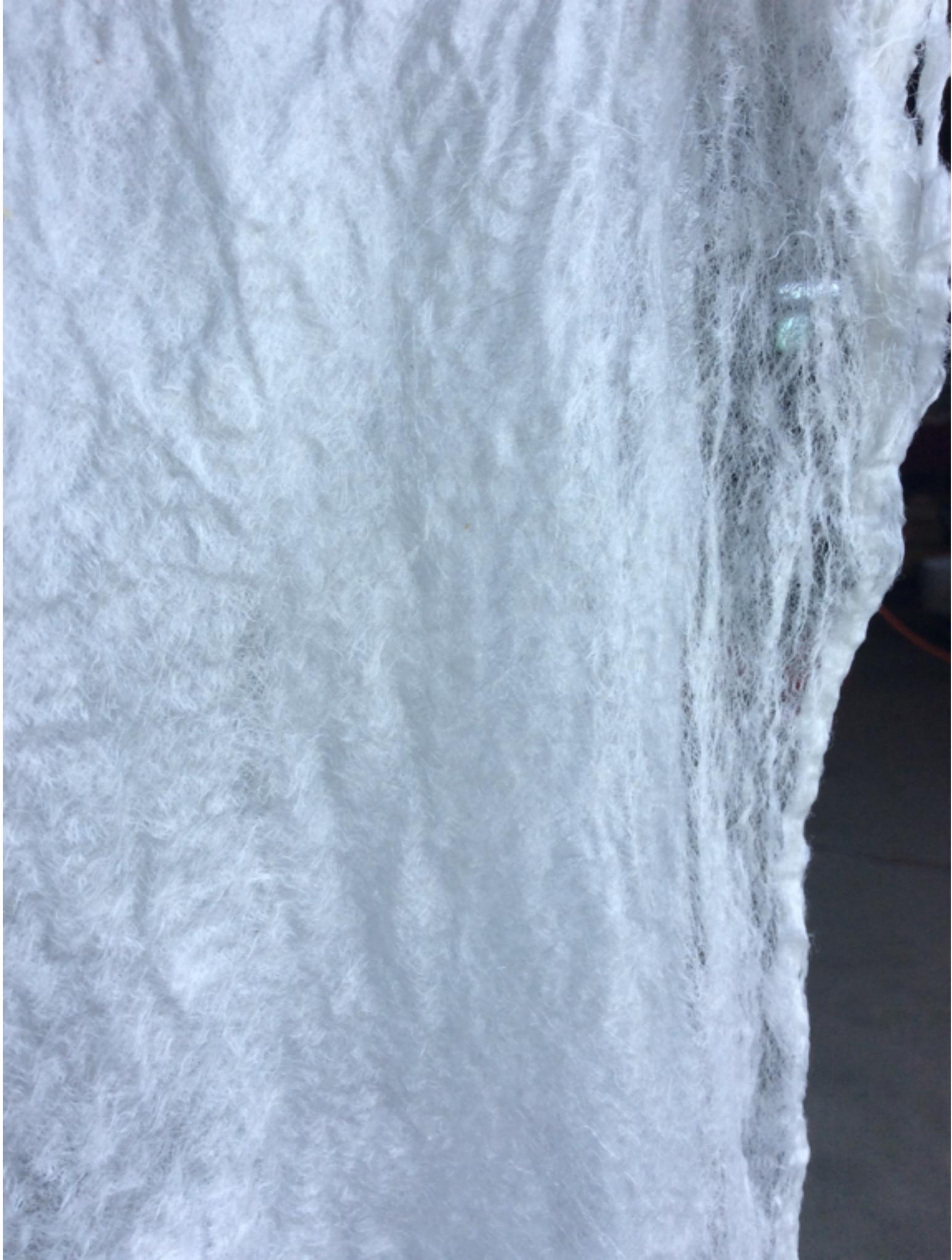












小高天織は、
天の虫と手仕事の手で、
小高の再生を目指す
プロジェクトです。

天の虫

かつて小高では、養蚕が盛んでした。

その名残で、今も小高では蚕のことを

「お蚕様」と呼びます。

お蚕様は本当に可愛くて、蚕守(こもり)りは喜びと驚きに満ちている。

今の小高にとって、お蚕様は、まさに「天の虫」。

この天の虫の力を借りて、小高の生業の復活を目指します。

手仕事

純白の繭は、天の虫からの贈り物。

天然の美しさに、私達は手仕事で応えます。

一人でやる手仕事は愉しく、みんなでやる手仕事は嬉しい。

目標は、手仕事で稼げるようになること。

小高で稼げれば、小高に住み続けることができるから。



小高の再生

放射性物質がついた桑を食べても、蛹から放射能は検出されません。

お蚕様は、穢れを呑み込んで、次の世代には渡さない。

私達も、お蚕様のように、次の世代を守りたい。

小高に住んで、穢れのない小高をつくりたい。









見えてきたこと

営みの力

生命の力

手業の力







育てることは
人を元気にする

つくることは
人をつなげる

自然の力





農業の意味







農の営みが
風景をつくる

風景が

過去と未来をつなぐ

農業を諦めてはいけない

未来に託すために
営み続ける

- 科学的な裏付け
- 楽しく農を営む

今後

住める

住みたい

訪れてみたい

稼げるようになる

若い人が来る

自然の価値

手業の価値

関係の価値

教訓

- ・ 尋ねながら道を歩く
- ・ 急かささない / 急がない
- ・ 耕し続ける